



エアロセンス株式会社とスウィフト・エンジニアリング株式会社が 日本国内における垂直離着陸型ドローン(VTOL)事業化で 協業を開始

エアロセンス株式会社(東京都文京区、代表取締役:谷口恵恒、以下エアロセンス)は、スウィフト・エンジニアリング株式会社(カリフォルニア州サン・クレメンテ、代表取締役:リック・ハイス、以下スウィフト)と VTOL (Vertical TakeOff and Landing: 垂直離着陸型固定翼ドローン)の日本国内における事業化について2017年7月に提携し、協業を開始しました。

エアロセンスは、自律飛行型 VTOL を2016年に開発しており、既にザンビア共和国での医薬品等の物流サービス支援や、沖縄での離島間飛行実験などで事業化検討を進めています。



Swift020 UAS

スウィフト・エンジニアリング株式会社 (<https://swiftengineering.com/>) は、1983年にレーシングカーの設計・製造会社として創業し、先進的な機体設計・製造技術が強みに、2000年以降は航空宇宙分野にも進出し、ボーイング、ノースロップ・グラマン、シコルスキー等の次世代製品の開発・生産プロジェクトを受託している米国の会社です。過去20年近くにわたる無人航空機システムの開発・製造経験の集大成として、現在自社ブランドの自律飛行型 VTOL: Swift 020 (<https://www.swift020.com/>) の実用化を目指しており、「エアロセンスとの協業と、X-Blade テクノロジーをフィーチャーした Swift020 UAS が日本市場に提供できるソリューションについて、私達はとても楽しみにしています。」(リック・ハイス)

マルチローター型ドローンは国内でも普及が進み、航空法改正により法的な枠組みも整理され、更なる実用化に向けた規制緩和、基準作りが進められています。一方、VTOL ドローンはマルチローター型に比べて飛行制御が難しく、安定した自律飛行を実現しているプレイヤーは数少ないため、制度面、実用面ともに課題があります。VTOL ドローンは、固定翼の高速性とマルチローターの場所を選ばない離着陸性の両方の利点を兼ね備えており、迅速に広範囲の状況を把握し、物資を届けることも必要な災害時での活用や、広範囲のインフラ点検・監視などへの実用化が期待されています。



エアロセンス社製 自律飛行・垂直離着陸型の固定翼ドローン (VTOL)



今後、エアロセンスとスウィフトは協業を通じて、Swift 020 の日本国内における飛行実験のサポートや、自律飛行型 VTOLドローンの基準作りや、実用化に向けたマーケティング活動を実施していきます。

【ZMP とエアロセンスについて】

ZMP はエアロセンスの正規代理店として、エアロセンスの販売するエアロボ測量、エアロボ点検等を提供しております。

また ZMP との自動運転技術とエアロセンスのドローン技術とを組み合わせた、有線給電・自律飛行についての取り組みを行っております。



ZMP フォーラム 2017 記者発表

■2017年4月21日 プレスリリース記事

URL: http://www.zmp.co.jp/news/pressrelease_20170421?lang=jp

【本件に関するお問合せ】

株式会社 ZMP 営業部 TEL: 03-5802-6901 / FAX: 03-5802-6908 E-Mail: info@zmp.co.jp

【株式会社 ZMP】

<http://www.zmp.co.jp/>

本社：東京都文京区

代表取締役社長：谷口 恒



RoboCar® 1/10



RoboCar® MV2



RoboCar® PHV



RoboCar® MiniVan



CarriRo®

「Robot of Everything 人が運転するあらゆる機械を自動化し、安全で、楽しく便利なライフスタイルを創造する」というミッションのもと、①ADAS(先進運転支援)、自動運転技術開発用プラットフォーム RoboCar®シリーズ及びセンサ・システムの開発・販売、②移動体メーカ(自動車、商用車、建設機械、農業機械、物流搬送機器、屋外作業機械等)向け自動運転等の開発支援、実験代行 RoboTest®、③物流支援ロボット CarriRo®の開発・販売を行っています。そのほか、ソニー(株)との合弁会社であるエアロセンス(株)や JVC ケンウッドとの合弁会社である(株)カートモ、ハーツユナイテッドグループとの合弁会社である(株)ZEG を通じてを通じて、ZMP はこれからも世の中に感動を与える製品やサービスを提供してまいります。